

8月3日特別例会「この世界の片隅に」(アニメ)

15周年記念特別例会第2弾

会員のみなさんへ

加古川シネマクラブ創立15周年記念企画第1弾、6月6日(5月例会)に「ベトナムの風に吹かれて」上映と大森一樹監督のトークを楽しみました。参加者は計270名でした。第2弾は、「夏はやっぱり平和について考えたい」と「この世界の片隅に」を選びました。原作は、この史代さんのアニメ本。ヒロインすずの声は、兵庫県神河町出身の“のん”さんです。こればびったり!! 一般オープンとしていまずので、お友達や子どもさんお孫さんと一緒に是非参加ください。映画を楽しみましょう!

代表委員 山本芳明

例会のお知らせ

■名称/第91回特別例会『この世界の片隅に』(アニメ)

■日時/8月3日(木) ①AM 10:30-、②PM 2:00-、
③PM6:30- (いつもと時間が異なります)

■場所/加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付/入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡ください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。



この史代・双葉社/「この世界の片隅に」製作委員会

■主催/加古川シネマクラブ

■後援/加古川市教育委員会

■その他/この例会は、特別例会として、一般の人も入場できます。

■入場料金 一般/1,300円、シニア・障がい者・会員同伴者/1,100円、小学生から大学生まで800円

【例会作品データ】

■タイトル/この世界の片隅に

■監督/片淵須直

■原作/この史代

■主演(声)/のん

■データ/2016年、日本、128分

■ジャンル/アニメ、戦争、ヒューマンドラマ

■作品/「長い道」「夕凧の街 桜の国」などで知られる、この史代のコミックをアニメ化したドラマ。戦時中の広島県呉市を舞台に、ある一家に嫁いだ少女が戦禍の激しくなる中で懸命に生きていこうとする姿を追いつける作品。

監督にテレビアニメ「BLACK LAGOON」シリーズや「マイマイ新子と千年の魔法」などの片淵須直、アニメーション制作にテレビアニメ「坂道のアポロン」や「てきゅう」シリーズなどのMAPPAが担当している。■ストーリー/昭和19年(1944)年の広島。18歳の”すず”は、顔も見たことのない若者と結婚し、生まれ育った江波から20キロメートル離れた呉へとやって来る。それまで得意な絵を描いてばかりだった彼女は、一転して一家を支える主婦に。創意工夫を凝らしながら食糧難を乗り越え、毎日の食卓を作り出す。やがて戦争は激しくなり、日本海軍の要となっている呉はアメリカ軍によるすさまじい空襲にさらされ、数多くの軍艦が燃え上がり、町並みも破壊されていく。そんな状況でも懸命に生きていく中、ついに1945年8月を迎える。

私の映画KAN

「シアター・プノンペン」を観て

(明石シネマクラブ6月例会作品)

この映画は、昨年に新作映画紹介記事を読んだ時から、是非ともみたいと思っていた映画でした。まず①1973年生まれのカンボジア初の女性映画監督の初作品。そして②カンボジア発としてクマー

ル・ルーシュ時代の大量虐殺を初めて取り上げた作品。ということで、興味を持って観ました。観終えて、最初に思ったのは、「優しい映画だった」です。この作品では、クメール・ルーシュ時代に人民の4分の1が殺され、その中には知識層として俳優まで含まれていた歴史的背景を元に、あの時代を生きてきた現在のある家族の再生を描いています。映画の物語は、首都プノンペンで暮らす女子大生が、古びた映画館で、知らなかった女優としての母親のポスターを偶然に見てしまった事から始まります。あの時代をカンボジア人自身がまぎらず直視し、ぶつかり合い、許し、そして前へ進んでいくんだという道しるべとなる映画をつくりたかったのだという監督の思いがわかる作品でした。歴史的事実を詳細に取り上げていないので、物足りなく、甘いストーリーだと感じるかもしれませんが、私が感じた「優しい映画」とは、まさに監督のカンボジアの人々に対する思いからきていたと思います。

追記。加古川シネマクラブと明石シネマクラブの会員特典交流も3年目に入ります。都合をつけて、ぜひ、明石シネマでも映画をお楽しみください
ね (せん)

■題名／シアター・プノンペン

■監督・脚本／ソト・クォーリーカー

■脚本／スティーヴン・チョボスキー

■キャスト／マー・リネット、ソク・ソトウン、ディ・サヴェット、
トゥン・ソーピー、ルオ・モニー

■2014年、カンボジア、105分

前回例会の報告

6月6日は、会員外の人でも観覧料を支払って鑑賞できる特別例会としてベトナムを舞台にした日本映画『ベトナムの風に吹かれて』を鑑賞しました。

大森一樹監督をお招きしトークの時間を持ちました。その人柄から、この映画の制作のようすを、たいへんわかりやすくお話いただきました。

参加会員 104人、明石シネマクラブからの参加者 19人、一般 159人で合計 282人の参加者でした。

わずかですが、赤字縮小に役立ちました。

明石シネマクラブ第44回例会情報

■名称／『トランボ』（2014年、アメリカ、124分）

■解説／「ローマの休日」など数々の名作を生んだ希代

の脚本家ダルトン・トランボの波乱万丈な人生を、テレビシリーズ「ブレイキング・バッド」で知られるブライアン・克蘭ストン主演で描いた伝記ドラマ。脚本家トランボはハリウッド黄金期に第一線で活躍していたが、冷戦の影響による赤狩りの標的となり、下院非米活動委員会への協力を拒んだために投獄されてしまう。釈放された後もハリウッドでの居場所を失ったトランボは、偽名を使用して「ローマの休日」などの名作を世に送りだし、アカデミー賞を2度も受賞する。

■監督／ジェイ・ローチ

■出演／ブライアン・克蘭ストン、ダイアン・レイン、ヘレン・ミレン

■日時／8月24日(木) ①PM2:00
一、②PM4:30一、
③PM7:00一

■場所／アスパシア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kagogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

会員数 134人(6月15日現在)

